地域防犯活動における「ながら見守り」の可能性
—若者主体の普及モデルの検討—

2班

地域名：栃木県
パートナー様：
栃木県生活文化スポーツ部くらし安全安心課

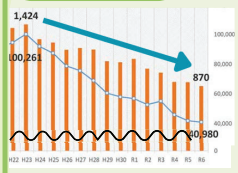
コミュニティデザイン学科 福田桃子　中曽根祐希　増永夏音　柴田敬真
建築都市デザイン学科　鈴木輝樹　伊藤朋揮
社会基盤デザイン学科　室井堅　伊藤壮春　高橋舞
グループ指導教員　三田妃路佳　先生

00「ながら見守り」とは

栃木県も推進する「通勤・通学・散歩・買い物など**日常生活の“ついで”に**周囲の地域に気を配る防犯活動」**手軽さが特徴**

可能なことを！　可能な範囲で！　可能な時に！

01　背景



※栃木県内の防犯ボランティア及びボランティア団体数の推移
縦軸：団体数　横軸：年度

栃木県の課題
①刑法犯認知件数の増加傾向
②ボランティア等防犯の担い手の高齢化・減少
➡これらの課題を解決する手法として、「ながら見守り」の存在をパートナー様から知った。

02　目的

前述の課題を踏まえ**地域防犯力（地域住民自身が地域の安全を守るための力）の向上を図る。**

03　方法

その方法として、**私たちがアプローチしやすい若者・学生に着目**し、参加ハードルの低い**「ながら見守り」を県全域に普及させる方法を検討**する。

04　活動内容-1st Cycle-

防犯出前講座
5/23(金)

ベルモール調査
6/24(火)

企業インタビュー
9/18(木)

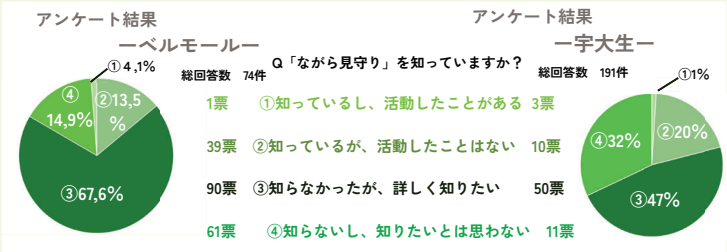
①実態調査
様々な防犯活動がある中でも「ながら見守り」の有効性を認知

②動向把握
地域住民と学生に「ながら見守り」の認知度と防犯意識の調査実施

③企業調査
企業で参考に「ながら見守り」を実施する際の留意点を学んだ

①県主催の防犯出前講座の受講(栃木県庁河内庁舎)　●分かったこと　● 考察
- ● 警察のパトロール＋住民の見守りの「両輪」➡まちに緩やかな監視体制
- ● 手軽な「ながら見守り」は学生も取り組みやすい

②アンケート調査　学内・ベルモール
【目的】現在の学生や地域住民がの防犯への関心を把握する



- ● 関心はあるが活動しているのは少数
- ● 手軽にできる選択肢があれば活動に移りやすい
- ● 見守り活動をしていると回答した人が「自分の地域では青パトが走っていて自分もなにかしたいと思った」と話していた
- ● 身近で行われる活動があると意識の向上につながる

★必要なのは「ながら見守り」という手段があることの啓発

③企業に対する調査（栃木県庁）
ー栃木リビング新聞社様ー
- ●「見慣れない子が歩いていて声を掛けたら迷子だった」というような見守り中の出来事の共有を実施している（ながら見守り中に**気を付けるべきポイントが分かるから**）
- ● ながら見守り中の出来事を報告・共有する場が必要

ー真岡地区防犯協会様ー
- ●グッズを身に着けて見守り活動を行っている
- ●ながら見守りを行う際、グッズを身に着けることで不審者への警戒とともに、地域住民の安心感にも繋がる

05　活動内容-2nd Cycle-

9/16.30(火)

10/7（火）

12/16（火）

④イベント実施
大学生で「ながら見守り」×「朝活」の散歩イベントを実施

⑤学生団体設立
学生が継続的に防犯活動に取り組むための団体を設立

⑥ワークショップ
学生を対象に「ながら見守り」の理解と防犯意識向上を目指して実施

④ながら見守りイベント実施（陽東キャンパス周辺）
- 「大学生が苦手とする朝の時間の有効活用」や「他学年との交流」など**参加するメリット**を盛り込んだ
- 見守り活動中と分かるよう「たすき」を着用した
- ●イベントの恒例化を目指すにあたりグッズ作成と学校への周知が必要

⑤学生団体設立
- さんぽイベントやワークショップを継続して行うためのテンプレート作成と、活動の記録を残すことが目的
- 見守り中のできごとを共有できる場としてInstagramのアカウントを作成した

団体イメージキャラクター　ルック君

⑥宇大生対象のワークショップの実施（11号館2F　ワークショップ2）
- ながら見守りの認知度向上を図るとともに、今後継続して行うためのテストとして実施した
- 実施後のアンケートではながら見守りについて深く知った上でどのように感じたかを調べた

●「手軽で自分でもできそう」
● ワークショップによる意識変化の促し
●「家にこもりがちだったが意識的に外にでようと思った」
● 今後の散歩イベントの有効性の示唆

06　結論

- 防犯への**「関心」**を**「行動」**に移すためにはきっかけが必要
- その**きっかけ**となる「ながら見守り」を普及させるために、設立した学生団体の活用が効果的

07　提案

ながら見守りを
①ワークショップで【知る】
②散歩イベントで楽しみながら【体験する】
③実際に見守りを行った際の出来事や感想をInstagramで【共有する】

という流れを学生団体の活動を中心にモデル化する。それによって学生を起点とする地域防犯力の向上を図ることができる。

※参考　栃木県生活文化スポーツ部くらし安全安心課/地域プロジェクト演習顔合わせ会資料　「栃木県内の防犯ボランティア及びボランティア団体数の推移」